

## ● 土砂災害警戒区域、特別警戒区域について

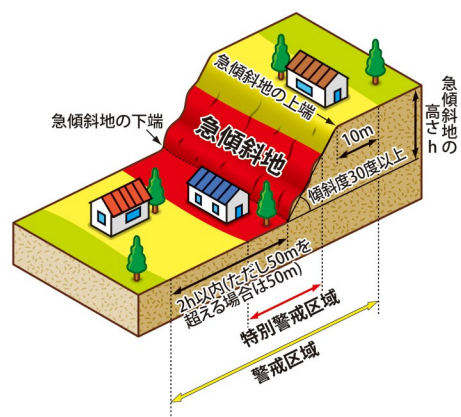
### 土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)

急傾斜地の崩壊等、土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生じるおそれのある区域。

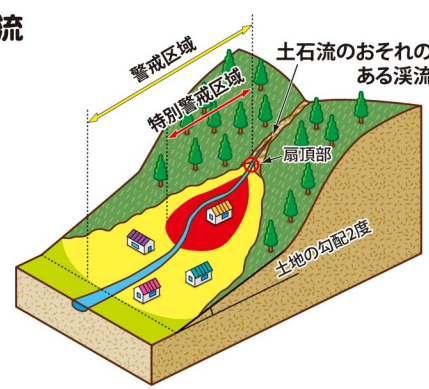
### 土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)

急傾斜地の崩壊等、土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生じるおそれのある区域。

#### 急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)



#### 土石流



#### 地すべり



#### 土砂災害警戒区域 (イエローゾーン) 指定基準

- 傾斜度が30度以上で高さが5m以上の区域
- 急傾斜地の下端から水平距離が10m以内の区域
- 急傾斜地の下端から急傾斜地の高さの2倍(50mを超える場合は50m)以内の区域

- 土石流の発生のおそれのある渓流で、扇頂部から下流で勾配が2度以上の区域

- 地すべり区域
- 地すべり区域下端から、地すべり地塊の長さに対応する距離(250mを超える場合は250m)の範囲の区域

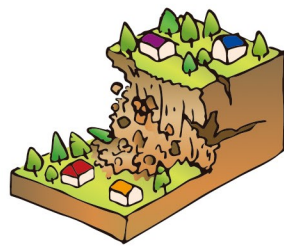
## ● 土砂災害の種類と前兆現象

土砂災害は、がけ崩れ・土石流・地すべりの3種類があり、勾配の急な山や、がけ、渓流のある地域に発生します。

### ◆ がけ崩れとは

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちる現象。

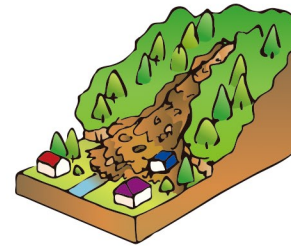
- がけに割れ目が見える。
- がけから水がわき出ている。
- がけから小石がばらばらと落ちてくる。



### ◆ 土石流とは

山腹、川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象。

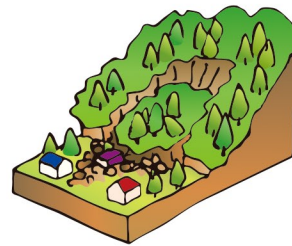
- 急に川の流れが濁り流木が混ざっている。
- 山鳴りがする。
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる。



### ◆ 地すべりとは

斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象。

- 沢や井戸の水が濁る。
- 地面にひび割れができる。
- 斜面から水がふき出す。

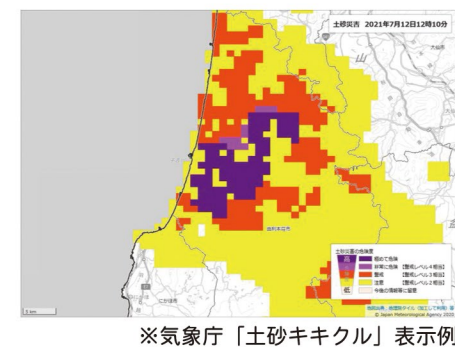
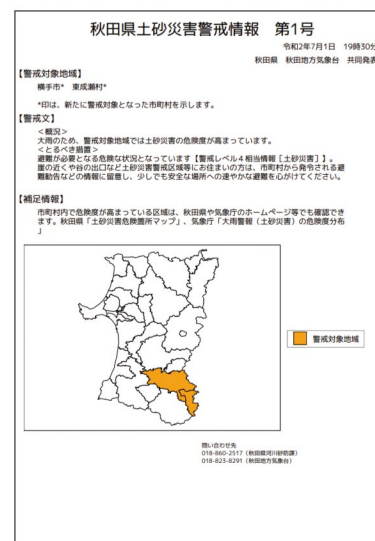
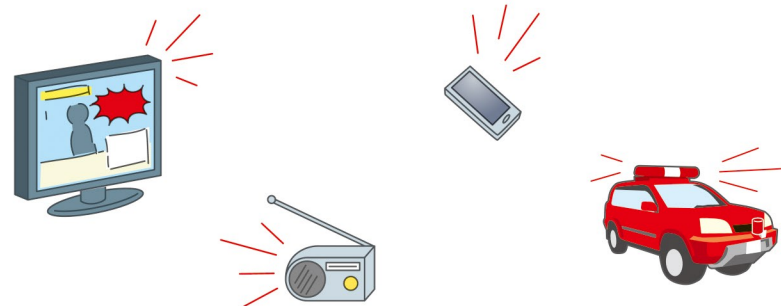


**こんな現象を見たら、早めに避難しましょう!**

ここで紹介した現象が、土砂災害発生の前兆現象の全てではなく、また、これらの現象が見られなくても土砂災害が発生する場合があります。

## ● 土砂災害警戒情報とは

大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、市町村長の避難指示や住民の自主避難の判断を支援するよう、対象となる市町村を特定して警戒を呼びかける情報で、都道府県と気象庁が共同で発表しています。

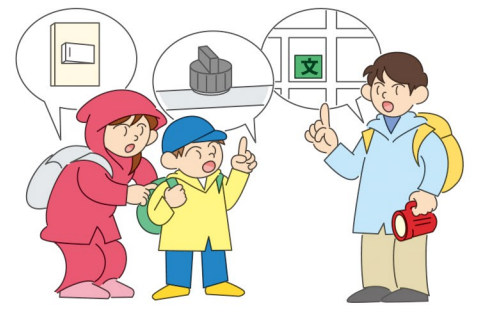


※土砂災害警戒情報発表例

## ● 土砂災害警戒情報が発表されたら

- 町は、この情報をもとに避難指示等の判断に活用します。町が発表する避難情報に注意しましょう。
- 町から避難指示等が出された場合は、安全な場所への避難をお願いします。
- がけの状況に注意し、前兆現象に気がいたら直ちに避難しましょう。

※ 周囲の状況や雨の降り方にも注意し、土砂災害警戒情報等が発表されてなくても、危険を感じたら、ためらうことなく自主避難しましょう。



## ● 土砂災害警報における避難の流れ

### ◆ 長雨や豪雨に注意

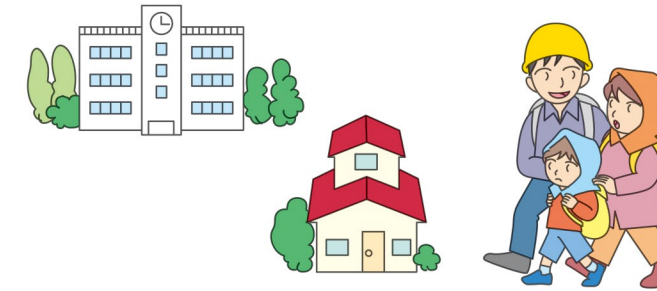
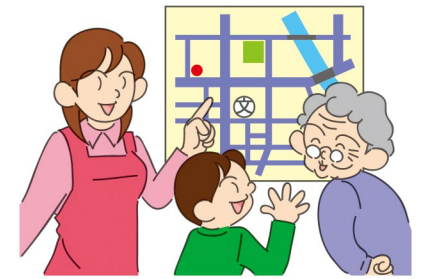
1時間に20mm以上、または降り始めから100mm以上の降雨になったら十分な注意が必要です。

### ◆ 早めの避難

土砂災害警戒区域から立退き、避難場所や近くの安全な場所へ避難しましょう。台風の接近等、あらかじめ災害の発生が予測できる場合は、親戚宅や知人宅、宿泊施設等に避難することも検討してみましょう。

### ◆ 事前の備え

災害が発生するおそれが高まった時、家族全員が一緒にいるとは限りません。普段から家族で、避難のタイミングや避難場所、避難経路を決めておきましょう。



### ◆ 避難が困難な時は2階以上に緊急避難

比較的高い建物の2階以上の、斜面とは反対側に位置する部屋に避難しましょう。

### ◆ 土石流に直面した時の逃げ方

土石流のスピードは時速20~40kmととても速く、すぐに追いつかれてしまいます。土砂の流れる方向に対して直角に逃げましょう。



## ● 秋田県で起きた大きな土砂災害

災害が少ないと言われる秋田県ですが、大雨や局地的な豪雨が発生すると、洪水を始め土砂災害も起こります。災害はいつ起こるかわかりません。天気の変化に注意しましょう。



秋田県内の災害現場  
(国立研究開発法人防災科学技術研究所より)

平成25年8月9日、日本海から湿った空気が流れ込んだことで大気の状態が非常に不安定となりました。秋田県では9日未明から雨が降り出し、明け方から昼過ぎにかけて県北部を中心に局地的に猛烈な雨が降り、24時間最大降水量(9日15時現在)は鹿角が293.0mm、鎧畑292.0mmで観測史上最大、桧木内250.5mm、湯瀬135.5mmで8月として観測史上最大の雨量となりました。